2025.3.28
令和６年度　特別号
さいたま市立浦和大里小学校
研修フィードバック

SATOKENTIMES

「試行錯誤しながら、粘り強く取り組む児童の育成」を目指して

浦和大里小学校は児童数が９００人を超え、３０学級ある学校です。本校では、今年度より「C　学びの連続性を生かした真の学力の育成」の研究領域で、内谷中学校、沼影小学校の２校と連携を図りながら研修を進めています。令和１０年度に、施設分離型の義務教育学校となっていくことを見据え、義務教育９年間を見通した、発達段階に応じた指導内容等を整理したカリキュラムについて３校共同で研究しています。

これからの予測が難しい未来を生きる子どもたちに、自分で考えて行動することができる「確かな学力」を身に付けさせる必要性が高まっています。そこで、本校の研究主題を「試行錯誤しながら　粘り強く学習に取り組む児童の育成　～自分で考え、自分で決める～」としました。各教科の学習を通して、自己決定する機会や方法の選択、試行錯誤する場面を意図的に取り入れ、自分の考えを行動に移した達成感を積み重ねることで児童の主体性を高めていくことができるように、「学びのポイント（じ・し・ゃ・ク）」の視点に基づく授業改善を行いました。

研究を進めるにあたり、児童だけでなく、教師も「自分で決めたことを試行錯誤しながら主体的に」研修に取り組む体制を作るために、一人ひとりが自主的に教科を１つ選んで、８つの教科サークル（国語、社会／生活、算数、理科、音楽、図工、体育、道徳）を作り、各サークルで協働的に教材研究を進めながら授業づくりを行いました。その中で「個別最適な学び」と「協働的な学び」についての捉え方を研究し、一体的に指導できるよう授業実践に取り組みました。

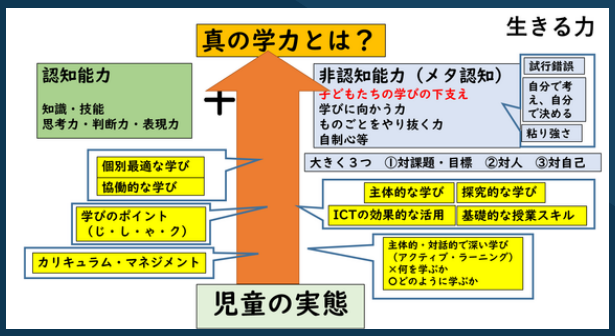

図１　「真の学力とは何か？」まとめ資料　令和６年４月１８日（木）

４月の研修では、研究領域にある「真の学力」について、各それぞれのサークルで話し合い、教員全体で考えを共有しました。各サークルから出た意見の多くは、「非認知能力」でした。「真の学力」とは、「さいたま市教育アクションプラン（令和３年度～令和７年度）」によると、①認知能力（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」）と②非認知能力（学びに向かう力等）を合わせた学力とされています。授業だけでなく、日頃から学校生活の様々な場面で、「認知能力」だけでなく、「非認知能力」を高めていくことの必要性を協働的に考えることができました。（図１　参照）

夏季休業中の研修では、「個別最適な学びと協働的な学びの一体化」について話し合いました。各教員が夏季休業中にまとめた「学び」を基に、それぞれのサークルで話し合い、他教科のサークルと考えを伝え合いました。「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に行う中で、研究主題を目指し授業改善していくことを共有することができました。

２学期は、各教員が公開授業や研究授業を実施しました。サークルごとにリーダー、まとめ役、研究授業者を決めて、サークル活動に取り組みました。研究協議会では、どの教科サークルも、授業の良かった点やマイアイデア（自分だったら…）を積極的に伝え合っていました。また、研修以外の時間にも教職員同士で児童の姿をもとに議論するなど、切磋琢磨している姿が様々なところで見られました。

３学期は、各教科サークルの授業実践や授業改善の視点、目指す児童像などを資料にまとめ、プレゼン大会を行いました。（図２　参照）各教科の特性だけでなく、他教科との関わりや共通点に気付くことができ、１年間の学びを深めることができる時間となりました。

今年度は、児童だけでなく、教職員同士で「個別最適な学びと協働的な学びの一体化」を主体的に行いながら授業改善を行うことができました。次年度は、今年度の取組をブラッシュアップし、内谷中学校と沼影小学校との連携をさらに深め、「試行錯誤しながら、粘り強く取り組む児童の育成」を目指していきます。

図２　国語科サークル発表資料　令和７年１月３０日（木）